

授与機関名 順天堂大学

学位記番号 甲第 2196 号

Atypical radiologic appearances of computed tomography of the chest in patients with lymphangiomyomatosis

非典型所見に着目したリンパ脈管筋腫症の胸部 CT 解析研究

関本 康人 (せきもと やすひと)

博士 (医学)

論文内容の要旨

リンパ脈管筋腫症 (lymphangiomyomatosis: LAM) は妊娠可能な年齢層の女性に発症する希少嚢胞性肺疾患であり、結節性硬化症 (tuberous sclerosis complex: TSC) に合併している症例 (TSC-LAM) と孤発性の症例 (sporadic LAM; S-LAM) が存在する。LAM の診断において High-resolution computed tomography (HRCT) 所見による鑑別は非常に重要である。LAM 患者の嚢胞は一般に「びまん性に偏りなく肺野に存在する、嚢胞の壁はスムーズで薄く均一な厚みである、嚢胞の大きさは比較的均一で円形、類円形を呈する」という特徴を有する。しかし、時として LAM に特徴的な嚢胞を呈さない非典型症例が存在する。本研究において我々は、LAM 患者の胸部 HRCT における非典型的所見の種類と頻度を明らかにした。2009 年 4 月から 2016 年 12 月にかけて当院に通院歴のある、HRCT 画像を確認可能な LAM 患者を対象とした。311 例の LAM 患者が解析の対象となった。そのうち S-LAM が 273 例、TSC-LAM が 38 例であった。非典型所見を嚢胞の所見と嚢胞以外の所見で大別した。嚢胞の所見が非典型的だったのは 57 例であった。そのうち 49 例が S-LAM で 8 例が TSC-LAM であった。非典型的な嚢胞の種類としては、1) 一部に 2cm 以上の大きさの嚢胞を認める、2) 一部の嚢胞に壁肥厚を認める、3) 大部分が 2cm 以上の嚢胞である、4) 大部分の嚢胞の形状が楔状である、という 4 種類を認めた。それぞれ、1): 52 例、2): 2 例、3): 2 例、4): 1 例であった。嚢胞以外の非典型所見としてはリンパ浮腫が 24 例、びまん性の粒状影が 6 例、多発性小結節性肺細胞過形成 (Multifocal micronodular pneumocyte hyperplasia: MMPH) が 15 例、心筋内の脂肪濃度を示す箇所 (Myocardial fatty foci) が 26 例、骨硬化像が 64 例に認められた。本研究によって LAM の HRCT 所見には多彩な非典型所見が存在することが明らかとなった。本研究では LAM 患者のうち約 20% で非典型所見を認めており、LAM を鑑別に胸部 HRCT を読影する際は非典型所見に注意する必要があると考えられた。